

# 届け 世界の果てまでも

令和3年11月25日

No. 46

文責 校長 飯久保一男

## 授業をつくるおもしろさ

10月に2年3組の算数、先日は4年2組の社会科の授業研究会をしました。今年度の本校の校内研究は、全教職員を低学年ブロックと高学年ブロックに分け、ブロックごとに1つの授業をつくってきました。1時間の授業のために、何回も話し合いを重ね、教材を分析・準備し、子どもたちがどのように学ぶことが主体的に学ぶ授業となるのか、お互いに提案し合い、校内研究を重ねてきています。この校内研究という文化は、他の国にはない、日本の学校の素晴らしい文化であるとともに、教師の仕事の中心となるものです。



先日の修学旅行には私も一緒に行ってきました。山梨県内の修学旅行になりましたが、改めて学ぶことがたくさんありました。私は5月にも、6年生の歴史の学習の見学に行きました。雨の中を2kmほど歩きました。たまたま足をケガしたという子がいて、列の最後を少し離れて一緒に歩き、気持ちのいい空気の中、この地で古墳や土器・土偶がつくられていた時代を想像しました。数千年前の様子に思いを馳せ、土偶の形に込められた人々の願いや、その時代の人々の生活の厳しさ、そしてたくましさなどに想像が広がっていきました。事実を正確に学ぶことで、その当時の生活が想像でき、人々の苦労の歴史の積み重ねの上に現在があることを感じた見学でした。

私は、6年生の歴史の授業でこんな実践をしたことがあります。

### <問題> 女性はいつからパンツ(下着)をはくようになったのか？

一見、悪ふざけのように思われるかもしれませんが。そのときの6年生の子たちも戸惑っていました。続けて「卑弥呼はパンツをはいていたか?」「紫式部は?」「北条政子は?」と聞いていきました。全員パンツをはいていなかったことを確認し、「では、いつごろから、何をきっかけに、女性はパンツをはくようになったのだろうか」と考えました。子どもたちなりに考えた結果、次のような考えが出されました。

○明治のころからではないか。

- ・外国の文化が入ってきたから。
- ・洋服が日本に入ってきたから。スカートをはくようになったから。
- ・寒さ対策ではくようになった。
- ・アメリカの生活を真似してはくようになったのではないか。

○昭和のころからではないか。

- ・戦後、余裕が生まれ、お金をもてるようになったからではないか。
- ・衛生面の理解が進んで、おしりからばい菌が入ることが分かったから。
- ・外国との貿易が盛んになり、洋服が日本に入ってきたから。
- ・家事のスタイルが変わり、やけどを防止するため。
- ・日本に外国の女性がたくさん来るようになり教えてくれた。 など



小磯良平「化粧する舞妓」

和装だった日本の女性はパンツをはいていなかったことを知り、明治になり、日本の文化に外国の文化が入ってきたこと、洋装になったことなどを根拠に考えを出す子が多くいました。生活スタイルの変化や外国との付き合いが増えたことなどに目を付け、話し合いが進みました。

この問題の正解は、昭和の初期です。



…俗説として有名なのは、昭和7年の東京日本橋の白木屋百貨店の火災です。和装だった女性店員がすその乱れを気にして、避難中に命綱を手放して転落死したとか、飛び降りることができず逃げ遅れて焼死したなどということがきっかけだといわれます。実際は、そういう形で亡くなった方はいなかったという話もあります。

…火災のあとに、女性のブロードス着用が呼びかけられたことは事実のようですが、この火災をきっかけに多くの女性が着用するようになったということではないようです。

それまでの日本は、男性中心の社会でしたが、大正～昭和の初期には、女性が男性と同じように社会で働き始めました。それに伴い、女性の服装が、和装では働きづらいので、洋装に変わっていったことが理由です。実は、この問題には、女性の社会進出という現象から、それまでの女性の地位の低さにもつなげていきたいというねらいがありました。子どもたちの興味や関心、解決の必要感を引き出すような問題をつくることで、学び合う授業、主体的な授業となっていきます。この問題は、最後には、女性の社会的地位の変化、男女平等とはどういうことかといった学習にまで発展させることができました。

授業のねらいを達成するために、始めに子どもたちにどんな問題を投げかけるか、または、どんな問題を子どもたちとつくっていくか、授業の方向を決める悩みどころです。この問題だったら、子どもたちはどう反応するかな、こういう問題にしたらどう考えるだろう…、授業をつくる上での、産みの苦しみでもあります、いちばんのおもしろいところでもあります。

**【おまけです】 服装の歴史の中から「制服」について** ※諸説あるようですが。

学校は明治5年に始まりましたので、学校の歴史は150年ほどあります。その間には、戦争や様々な震災などの悲しい歴史もありました。以前にもこの紙面で少し触れましたが、その長い歴史の中での習慣が今でも学校には多く残っています。「制服」についても長い歴史があります。洋装である制服は、19世紀の日本の軍服がモデルになったとされています。始まりは、明治のはじめのころ、洋服が珍しかった時代に、徴兵されたときに軍服に慣れない人が多かったため、子どものころから洋服に慣れさせるためのものであったそうです。

明治時代は、日本が西欧諸国に負けまいと軍隊を増強していった時期です。そのため、「軍人」や「軍服」は人々のあこがれになっていたそうです。「セーラー服」は、イギリス海軍がセーラー服を軍服として採用したことで、日本の海軍もイギリスの真似をしたようです。それを日本の女学校が採用したという形です。男子の制服の「詰襟」は、東京大学などが陸軍の制服を採用したのが始まりといわれています。

…さらに、脱線します。制服をブレザーにモデルチェンジした学校には「制服がかわいいから行きたい」という女子生徒が集まりました。その結果、その学校の偏差値が上がり、問題の多い生徒（語弊があります）が減るなどの効果があったそうです。そのため、1980年代後半から1990年代にかけて、私立校でブレザーの制服に改める学校が増え、公立校にも広がっていきました。

…セーラー服といえば、女子中高生の制服というイメージがあるため、海上自衛隊員がセーラー服を着ていることに違和感を覚えることがありますが、海上自衛隊員のセーラー服の方が元祖です。ちなみに、海上自衛隊の女性隊員の制服にセーラー服はありません。



<ポパイも Donald Duck もセーラー服>



<海上自衛隊 男子海士のセーラー服>